



甲状腺は、のどの位置にある蝶々(ちょうちょう)のような形をした臓器で、重さは15~20g程しかない小さなものです。

甲状腺は、食べ物に含まれる栄養の一つである「ヨウ素」を取り込み、甲状腺ホルモンを作り出す役割をしています。

甲状腺ホルモンは、新陳代謝を活発にし、子どもの成長に欠かせない物質です。

区別できない

ヨウ素と放射性ヨウ素

甲状腺は、甲状腺ホルモンを作るため「ヨウ素」を取り込みますが、取り込む際に、通常のヨウ素と放射性ヨウ素を区別することができません。

このため、放射性ヨウ素が甲状腺にたまると、細胞の中の遺伝子を傷つける危険性があります。

ご存知ですか？ 甲状腺の役割

のど

なぜ甲状腺検査を？



1986年4月 チェルノブイリで起きた原発事故の後、放射性ヨウ素による内部被ばくで小児甲状腺がんが増加しました。

調査の結果、被ばくした牛乳を飲み続けたことによる内部被ばくが主な原因でした。

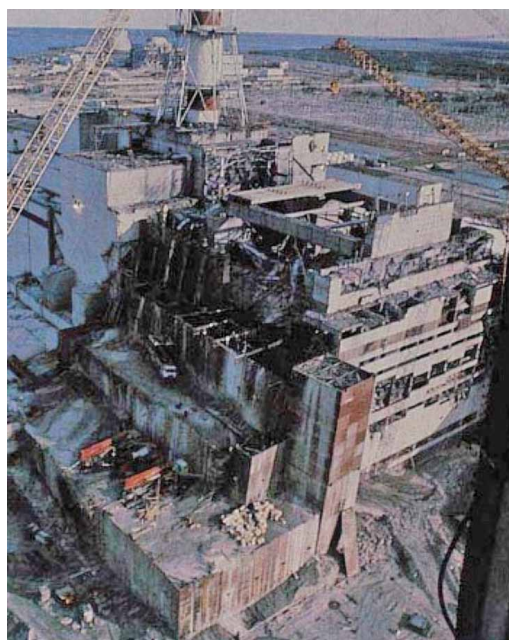
チェルノブイリ事故と比べると、福島第一原発事故の被ばく量が低いことが調査結果で分かりました。その要因として、早い段階から出荷制限を行ったことが挙げられます。

しかし、県では子どもたちの健康を長期的に見守るため、事故当時18歳以下だった方を対象に平成23年10月から県民健康調査「甲状腺検査」を実施しています。

チェルノブイリ原子力発電所は、ウクライナ(旧：ソビエト連邦)のチェルノブイリ近郊、プリピャチ市にあった原子力発電所です。

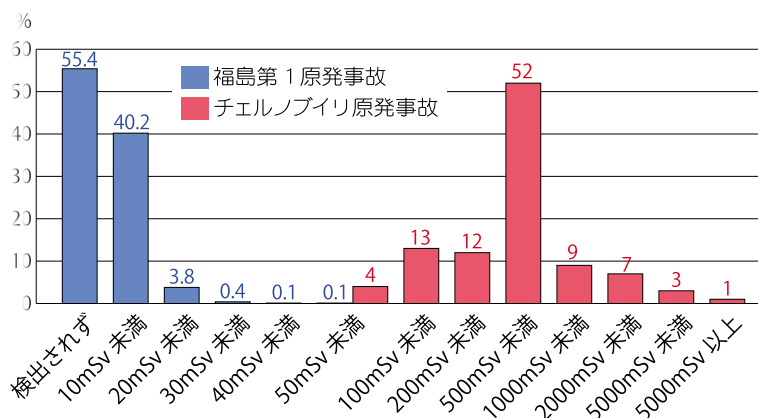
1971年に着工し、1978年5月に1号炉が営業運転を開始しました。それから8年後の1986年4月26日午前1時23分(モスクワ時間)に、4号炉が原発事故を起こしました。

右の写真は、原発事故で破壊された建物の写真ですが、現在は放射能の拡散を防ぐ為にコンクリートで覆われています。



チェルノブイリ原子力発電所の事故後の写真

チェルノブイリと福島第一原子力発電所の放射性ヨウ素被ばく量比較



※チェルノブイリ原発事故における割合(%)の合計は四捨五入の関係から100%になっていません。

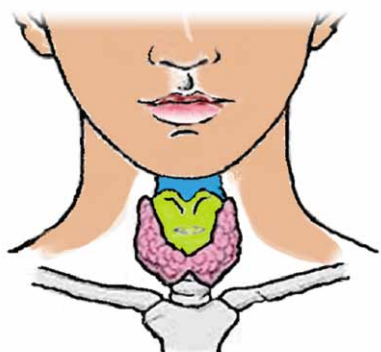
チェルノブイリと比べて少量

国が平成23年3月26日から30日にかけて飯舘村、川俣町、いわき市の小児1,080人を対象に行った甲状腺スクリーニング検査の結果、ヨウ素被ばく量は、最大でも50mSv未満であり、チェルノブイリ事故と比べると少量でした。

また、国連科学委員会の平成26年度報告書でも最大で80mSv程度と報告されています。

現在の甲状腺検査は、原発事故から1年後に生まれた子どもまで対象範囲を拡大して実施しています。(平成4年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた子を対象)

甲状腺検査って どんな検査？



甲状腺検査は、「先行検査」と「本格検査」の2段階の方法で行っています。

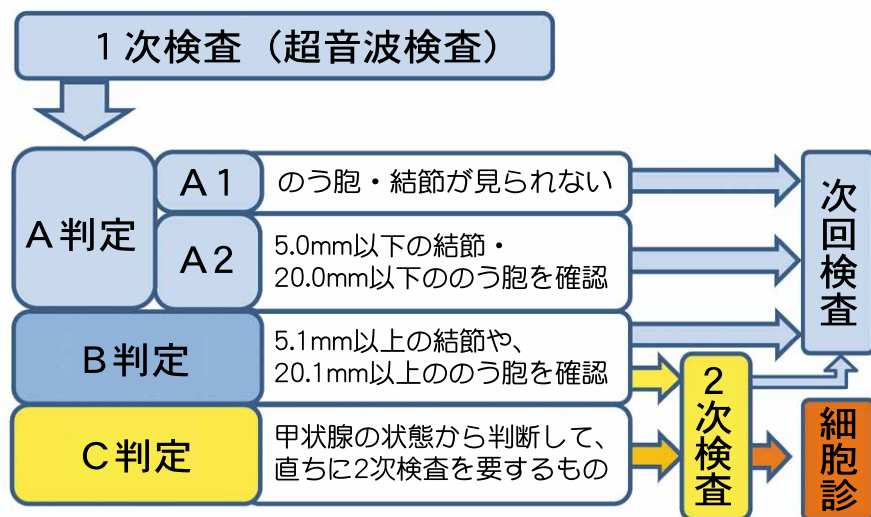
先行検査

1段階目は、子どもたちの事故後の甲状腺の状態を確認することを目的とした「先行検査」を行います。

本格検査

2段階目は、先行検査と比較してどう変化しているかを確認する「本格検査」を行っています。

検査の流れは？

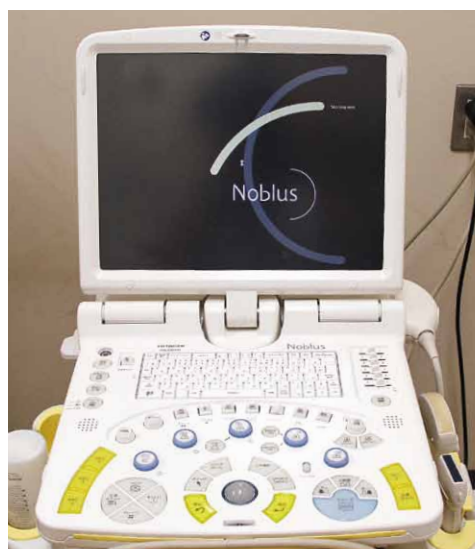


継続して 検査を実施

県民健康調査「甲状腺検査」は、県内外の医療機関と連携し、今後も長期に亘って実施します。

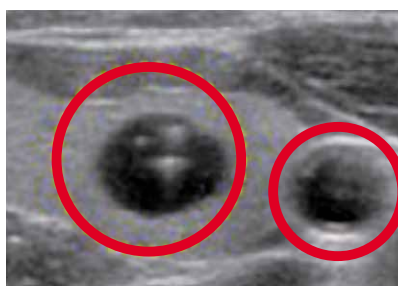
今後の検査は、20歳を超えるまでは、2年に1回。それ以降は、25歳・30歳・35歳など5歳刻みに実施します。

※2次検査では、超音波検査に加えて、血液検査、尿検査を行います。
※細胞診の正式名は、穿刺吸引細胞診（せんしきゅういんさいぼうしん）で、とても細い針の注射器で甲状腺の細胞を採取し、悪性か良性かを調べます。



エコー検査を行う超音波機器
（南相馬市立総合病院）

【のう胞】



のう胞とは、「中に液体がたまった袋状のものです。のう胞は中が液体で細胞がないため、がんになることはありません。

【結節】



結節は、「しこり」とも呼ばれ、甲状腺の細胞が変化したものです。結節には良性と悪性があります。

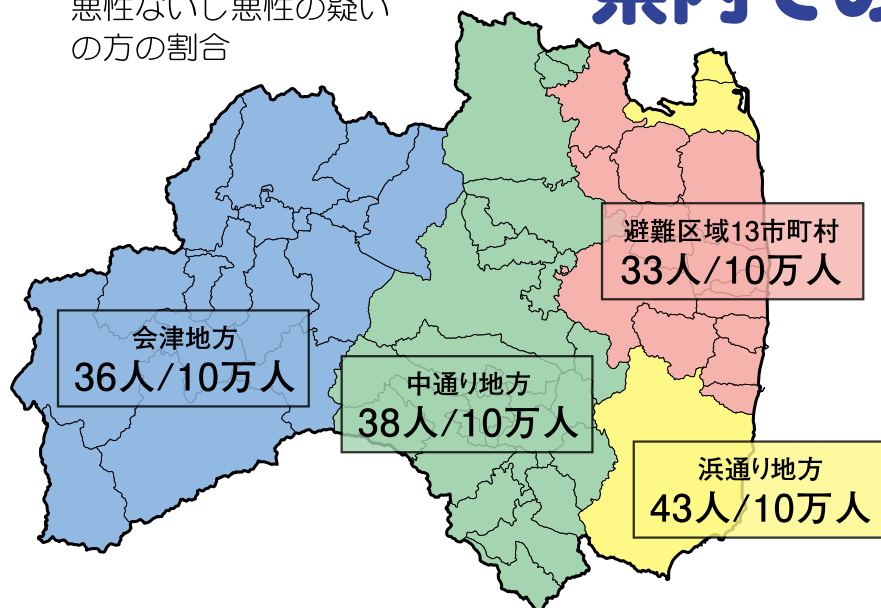
福島第一原発事故と甲状腺がんの関係については、まだ結論が出ていません。このため、ご自身の甲状腺の状態を確認するためにも継続して甲状腺検査を受診してください。

悪性ないし悪性の疑い
の方の割合

県内での地域差は？

ほぼ同じ結果

先行検査の結果を地域別に比較したところ、避難区域等13市町村と、その他の浜通り、中通り、会津地方の4つの区域で大きな差はなく、ほぼ同じ結果でした。



青森・山梨・長崎と比べたら？

ほぼ同じ結果

福島県の結果と比較するために、青森県、山梨県、長崎県の3県でも甲状腺検査を実施しました。調査結果は、先行検査、本格検査共に他の3県とほぼ同じ結果でした。

本県の先行検査

合計300,476人

A1判定 51%

A2判定 48%

B判定 1%
C判定 0%

本県の本格検査

合計256,670人

A1判定 40%

A2判定 59%

B判定 1%
C判定 0%

県外3県の結果

合計4,365人

A1判定 42%

A2判定 57%

B判定 1%
C判定 0%

※ A1判定は、のう胞・結節が見られない

A2判定は、5.0mm以下の結節・20.0mm以下ののう胞あり

B判定は、5.1mm以上の結節・20.1mm以上ののう胞あり

キノコ狩り シーズン到来

もうすぐキノコの季節を迎えますが、野生のキノコは、現在も放射性物質を多く含んでいるものがたくさんあります。野生のキノコを採ってきた際には、必ず検査をして安全であることを確認してから食べてください。



また、南相馬市の野生のキノコには、現在も出荷制限に加えて、摂取制限もかかっていますので、できるだけ食べることもお控えください。



必ず測定を！

市では、各生涯学習センター及び小高区役所に非破壊式の測定器を備えています。そのまま測ることができますのでご利用ください。